

論文審査の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（看護学）	氏名	友安 由貴子
学位授与の条件	学位規則第4条第1(2)項該当		
論文題目			
<p style="text-align: center;">Parenting Record Handbook: The Needs of Mothers Raising Low Birth Weight Infants (育児手帳：低出生体重児を養育する母親のニーズ)</p>			
論文審査担当者			
主査	教授	大平	光子 印
審査委員	教授	新福	洋子
審査委員	准教授	小澤	未緒
〔論文審査の結果の要旨〕			
<p>早産児の生存率は，周産期医療の進展と医療体制の整備により飛躍的に向上しているが，脳性麻痺等の神経学的後遺症を持つ児や，継続的な医療を要する児が増加している。そのため，低出生体重児（Low birth weight infant: LBWI）の母親は，正期産児の母親に比べ，育児不安や抑うつリスクが高い。</p> <p>しかし，LBWI と母親への公的支援には，母子健康手帳のような多職種による母子保健サービスを継続的に保証するツールがない。そのため，一部の自治体や医療機関で利活用が始まっている LBWI の母親達によって作成された LBWI のための育児手帳の役割は大きい。わが国独自の LBWI のための育児手帳利用者への質的調査では，母子の QOL 向上と，育児に対する精神的支柱として育児手帳が活用されていることが明らかになっている。LBWI の支援の端緒となるツールとしての育児手帳の改善や充実に向けたニーズの探索は喫緊の課題である。そこで，本研究は，LBWI と母親のニーズに対応した育児手帳作成のために，育児手帳を利用していない LBWI の母親の育児困難や悩みに基づく育児手帳のニーズを探索することを目的とした。</p> <p>研究デザインは質的帰納的研究である。対象者は母子健康手帳利用年齢の出生体重 2500g 未満児の母親であった。除外基準は産後うつ傾向の強い母親とした。A 県の LBWI の親の会代表者に，会員への研究参加の広報を依頼し，同意を得た対象者にフォーカス・グループ・インタビューあるいは個別電話インタビューを行い，LBWI の育児困難と対処法，育児手帳へのニーズを尋ねた。母親の背景や LBWI の人口統計学的データは調査票を用いて郵送により調査した。分析は 2 名の研究者が独立して行い，コードの解釈やカテゴリー化においては研究者間で合意に達するまで協議した。さらに小児看護学及び母性看護学の専門家によるスーパービジョンを受けることによって結果の信用性及び確証性の確保に努めた。</p> <p>研究対象者は LBWI の母親 20 名であり，LBWI は <math>2.75 \pm 0.35</math> 歳，出生体重 <math>1417.50 \pm 152.06</math> g，出生週数 <math>31.25 \pm 1.06</math> 週，療育センター利用 4 名，療育手帳取得 2 名であった。</p>			

逐語録から抽出されたコードは 77 のサブカテゴリーに集約され、妊娠中から現在までの時間経過に沿った育児手帳へのニーズに関する 8 のコアカテゴリーが明らかとなった。

妊娠中から NICU 入院中の時期、母親は LBWI 出産の衝撃、LBWI への自責に苦しみ、LBWI について学ぶ機会やピアサポートの不足に苦悩しており、育児手帳には、“心理的負担の軽減”と“ピアサポートの促進”に関する内容を求めた。NICU 退院後から在宅での子どものケアの時期、母親は産前の長期入院による体調不良や、育児による心身の過重負荷のために情報収集活動が十分でなく、またインターネット情報の質に対する懸念から、児の発達やケア、支援情報の入手に苦勞しており、育児手帳には、“産後の心と身体のケア”、“育児困難への相談先や信頼できる情報源”としての機能を求めている。また、育児手帳は“多職種の情報共有ツール”でもあった。LBWI の出生から現在まで、母親は LBWI で生まれた子どもなりの発育曲線や発育に関する将来の見通しへの支援を希望しており、育児手帳に、“低出生体重児の発育の指標”、“育児記録”と“出生時からの子どもの情報管理”の機能を求めた。

育児手帳を母子保健・医療・福祉サービスの包括的・継続的保証ツールとして普及していくためには、今後、量的調査、LBWI の父親、後期早産児、医療的ケア児等への調査や多職種による評価等が求められるが、本研究結果は母親の育児困難及び対処と支援にニーズとともに育児手帳に対するニーズを記述するという手法をとることによって、LBWI の母親が、LBWI のための育児手帳に母子保健サービスの包括的・継続的保証ツールとしての機能を求めていることを導きだした。

以上の結果から、本論文は、我が国における低出生体重児とその母親に対する今後の母子保健施策に示唆を与えており、看護学の発展に資する研究として評価される。

よって審査委員会委員全員は、本論文が友安由貴子に博士（看護学）の学位を授与する価値あるものと認めた。